

イタリアワックス解剖模型を訪ねて

島田 和幸, 瀬川 彰久

解剖学雑誌 第75巻 第3号 別刷

2000年 6月1日

(Acta Anatomica Nipponica)

Vol. 75 No. 3. June 2000

イタリアワックス解剖模型を訪ねて

島田 和幸, 瀬川 彰久*

鹿児島大学歯学部口腔解剖学第二講座

*北里大学医学部解剖学教室

はじめに

カリアリ博物館¹⁻⁴⁾

第15回国際解剖会議がイタリアのローマで、1999年9月11～16日にかけて開催された。今回、この会議での発表にくわえ、我々にはもう一つ大きなイタリア訪問旅行の理由があった。それは昨年7月末日より10月17日まで東京上野の国立科学博物館で開催された大“顔”展に、海外初公開された人体頭部ワックス模型の故郷カリアリ Cagliari 大学訪問と、イタリア各地に所蔵されているワックス標本の見学であった。事前に予約をとり、カリアリ大学 Raccolta di Cere Anatomiche di Celeme Susini, ナポリ大学解剖学研究所 Museo Anatomico, Istituto di Anatomia Umana Normale, II Università degli Studi di Napoli, フィレンツェ Firenze 大学比較動物学教室の解剖標本室（日本でも最近有名になってきているスペコラ博物館 Museo Zoologico “La Specola” dell’Università a Firenze), そしてボローニャ Bologna 大学の人体解剖研究所博物館 Museo delle Cere dell’Istituto di Anatomia Umana, Università degli Studi Bologna などを訪ねることとした。

ワックス模型は、今から200-300年前、人体解剖学のルネッサンスが勃興し盛んに人体の諸構造が発見された時代、その中心にあったイタリアで作られたものである。外科医や医学生に新しい知識を提供することが目的だったようだが、宗教上の理由であまり解剖用屍体が入手できなかった事情もあったらしい。それはさておき、解剖学者が解剖した屍体をもとに、蠅細工師が作ったという模型は、驚くべき精密さで作られている。特筆すべきは、美男美女だったり、ポーズをとったり、豊かな表情をみせるなど、芸術的であることで、イタリアルネッサンスという風土と時代が生み出した傑作が揃っている。「真実は美しい Truth is beauty」といわれるが、これらのワックス標本を見れば、まさに「優れた解剖は、優れた芸術である」ことを実感させる。

長い時代の変遷を経たワックス模型の管理状況や保存状態は良好で、非常に精巧に作製された標本類を見ていると当時の形態科学者の情熱が伝わって来る。それと同時にイタリア解剖学の伝統を後世に伝えようとする各大学の解剖研究所、教室の努力姿勢も学ぶべき点が多々ある。何かの機会があればぜひ立ち寄っていただきたい場所と考え、ここに訪問順に記載報告する次第である。

海外初のワックス模型展示を日本で実現する運びとなったご縁で、カリアリ大学の Alessandro Riva 教授が国際解剖会議の数日前にサルデニヤ島 Sardegna のカリアリに私達を招待してくださった。サルデニヤ島はシンシリー島の北に位置する地中海2番目の島で、ローマから飛行機で約1時間の所にある。カリアリ空港に着くと Riva 教授の研究室の主任研究員 Felice Loffredo 博士が迎えてくれ、ホテルに直行した。そのホテルでは国際解剖用語委員会が開催されていて、筆者のひとり（島田）の米国留学中のボスである R. J. A. DiDio 教授, R. F. Gasser 教授らが参加されており、思いもよらない再会ともなった。

9月9日の午前中に Riva 教授運転の車で市の中心部、カリアリ城跡の丘にある博物館に案内された。これはお城を改造した建物で、訪問当時は改装中で閉鎖されていたが、我々の為にわざわざ開けていただいた (Fig. 1)。ここにはカリアリ大学のワックスモデル (カタログによると23個。そのうちの一個を東京で展示した) が保管管理されており、その一つが模型作製当時のオリジナルのガラスケースの中に納められていた。人体頭部、半身像、手、足、骨盤内臓などの模型がある。これらはフィレンツェに住む天才蠅細工師 Clemente Susini (1754-1814) (Fig. 2) の晩年の作とされ、初代カリアリ大学解剖学教授であった Francesco Antonio



Fig. 1. ワックス模型が一つ一つ標本ケースに入れられて展示している。



Fig. 2. Clemente Susiniの肖像画。

Boi (1767-1855) が行った解剖をもとにして製作された模型である。Boi は、当時のサルデニヤ島の支配者であった Savoy 家 Carlo Felice (1765-1831) の資金援助でフィレンツェに留学し、そこで作製した模型を購入してキャリアに持ち帰ったのである。著者はそれらの模型のカタログを Riva 教授より謹呈していただいた。その一冊については近々瀬川²⁻⁴⁾により日本語訳も出版される予定である。

ナポリ大学博物館

イタリア国鉄にて2時間ほどでナポリ駅に到着する。見学には予約が必要で、われわれは Riva 教授より紹介していただいた。アドレスをたよりにタクシーで行ったが、ナポリは道が狭く、付近で下車せざるを得ない。運悪く道に迷い、さがしにさがし歩くことようやくにしてナポリ大学の解剖学研究所にたどりついた。研究所につくと PaPa 教授がにこやかに我々を出迎えてくれた。

この研究所の敷地内には法医学、病理学研究所も同居しており人体解剖に関するセンターの様であった。中庭を囲んだ建物の2階に解剖学研究所があり、その一角に博物館がある。館内では Vincenzo Esposito 教授が各標本について説明してくださった。

この博物館の標本は人体のパーツごとにセクションがわけられ、それぞれのセクションごとにキャビネット中におさめられている (Fig. 3)。ワックス模型については正常と異常の胎児発育の状態や出産過程、胎児の各月齢に模型、頭頸部の標本、眼科、耳鼻科領野での正常と異常に関する模型などが展示されていた。これらの多くは Francesco Citareli の作品で、Gioacchino Murat 教授が1833年にこの博物館の館長に任命された頃作られたものである。新しいだけに、解剖学的正確さと芸術性両方を備えた作品が多い。決してその数は多いとはいえないが妊娠中の女性子宮内や各月齢の胎児については実にリアルなワックス標本がそろっていることが印象的であった。またワックス模型以外の標本も多数あり、Efsio Marini 博士による解剖剖出標本、人類学のセクションにも



Fig. 3. ナポリ大学博物館ではキャビネットごとに標本(解剖, 病理, 人類)が収納されている。

多くの頭蓋人骨のコレクションが展示されていた。また Vesalius が剖出したとされている上腕骨があり、説明と共に展示してあった。その他にも71個にのぼる乾燥標本や循環器、特に色素を注入された心臓標本やいろいろな珍しい奇形胎児標本などがキャビネットの中に整然と展示してある。

フィレンツェ・スペコラ博物館⁵⁻⁹⁾

次に訪問したのはローマよりイタリア国鉄で約2時間程度のイタリア中部トスカーナの州都フィレンツェである。ここにはフィレンツェ大学動植物学科の管轄になる La Specola がある。この博物館は、メディチ家没落後フィレンツェを支配したハプスブルグ家から派遣されたピエトロ・レオポルド公の命により設立された。日本でも何度か紹介されており、御存知の方も多いかもしい。大学構内にあるため入り口はわかりにくい。駅から歩いて有名なベッキオ橋を通過し、ピッティ宮を左にみてさらに歩くこと5分程、左手に Istituto Anatomico の小さな表示がみえる。ここを入ると、奥に建物がありその3階に入口がある。そこで大人6000リラの入館料をはらう。

収集展示標本は膨大で、人体だけでなく動物の標本が多数展示されており、これらは全部で34室にわけられた小さな個室に収められている。動物は剥製にされ、下等なものから高等な哺乳動物へと順次展示してあり、子供にも楽しめる。人体のワックス模型の展示は部屋番号25~34番である。人体の各部にわけて、ワックス模型の原図を壁の上段に、そしてそのワックス模型を各一つ一つガラスケースに入れて下段に展示してある。本博物館のワックス模型の一番の作品としては Gaetano Zumbo (1656-1701) が解剖に興味を抱き作製した、男の頭部の作品があげられよう。近年のX線調査から頭蓋骨は24歳前後の青年の実物を用い、その上に直接にワックスを細工された作品であることが示されている。『絞首刑に処された男の顔』と題されたこの顔は、苦悶の表情にゆがみ、鼻からは一筋の血まで流している (Fig. 4)。圧巻は、さきほど述べた Clemente Susini 作の562個におよぶ人体解剖作品が展示されていることで、そのうち19体は実物大の全身像である。16歳の少女の遺体から作製されたとされている全身模



Fig. 4. Zumboの代表作と言われている男性苦悶を表しているワックス模型。

型は別名を『解体されたヴィーナス』と呼ばれ、芸術作品として高い評価を得ている。この模型は分解することができ、まず腹部をとりあげると内臓器官、そして各内臓も各パーツごとに取り出せて、最後には子宮をあけると胎児が入っている状態がみえる (Fig. 5)。男性の全身像では各筋肉や神経、動脈、リンパ管などが割出されたものが多数あり、これらは解剖学的にも正確でかつ緻密に製作されており、その出来映えに思わずため息がもれる。

ポーニャ大学¹⁰⁾

最後に訪問したのはポーニャ大学人体解剖研究所である。一般公開されているが、訪問には事前の予約が必要で、Riva教授に事前に連絡していただいていた。タクシーに乗り研究所に到着すると Giovanni Mazzotti 教授が我々を出迎えてくださり、さっそく研究所の3階にある博物館に案内された。ポーニャ大学は11世紀に創立されたヨーロッパ最古の大学であり、この博物館の起源は1742年、Pope Benedict XIVの援助に始まったとのことである (Fig. 6)。

入口より左側奥には自由都市ポーニャ大学で教会の反対



Fig. 5. スペコラ博物館の内部には所狭しとワックス模型が展示してある。



Fig. 6. ポーニャ人体解剖研究所を入ると男女の表層から骨になっていく過程を順次展示している。

をものともせず世界初の人体解剖が行われた Teatro Anatomico (解剖室)の、実物の大理石解剖台がおかれている (ポーニャ大学は現在3ヶ所に散在しており、Teatro Anatomicoは別の場所にあるが、そこにある解剖台は複製とのことである)。その両側壁面にあるガラスケースには骨、筋などの部分実物乾燥表本が展示されている。一つ一つに時代の変遷を感じさせる標本ばかりである。さらに進むと8体の人体立像がある。これらはワックス模型作製黎明期に第一人者として活躍した Ercole Lelli (1702-1766)の作品である。まず、左右に男女の像が配置され、それぞれアダムとイブを想定し、男女の性差も非常に明確に表現されている。裸体像のつぎは、皮膚をはぎ全身筋肉になった像、そして最後に骨格像へと変化していく。これら8体はすべて実物の人骨より構成されており、その上に筋肉、皮膚などをワックスで作ったものである。初期のワックス模型は、すべて人骨をベースに作られたのであり、これらの標本は歴史的にも価値がある。解剖の正確さは後期の作品に劣るが、芸術作品としてはレベルの高いものと思えた。

廊下をつきあたると右側に、ワックス模型が多数展示されている部屋がある。ここにも1体フィレンツェと同じヴィーナス像が展示してあった。これもやはり Susiniの作品である。彼はワックス解剖模型を作成するにあたりポーニャ大学に解剖学を学びにきた時の彼の初期の作品である。フィレンツェのラ・スペコラに比較するとワックスにひびが入っていたりして保存状態も少し悪いようにみえたが、これは人骨をベースに作ったためである。Susiniはその後人骨を使わない模型製作技術を開発して、ひびの入りにくい模型作りに成功し、優れた作品をうみだしていったのである。ここに展示されている模型は、初期の作品とは言え精巧に作られた技術には目を見張るものがある。それ以外の標本は Lelliの弟子 Manzolini 夫妻 (夫 Giovanni Manzolini 1700-1755, 妻 Anna Morandi Manzolini 1714-1774) が作ったもので、解剖学的正確さを追求してコレクションを充実させたという。この二人の像があたかも神棚のように安置されているのが面白い。彼等は、機能形態学に関心があったらしく、手の関節機能を示す模型なども多く展示されている。

Acknowledgements. We acknowledge Professor Alessandro Riva (University of Cagliari), Professor Vincenzo Mezzogiorno (University of Naples), Professor Alessandro Ruggeri (University of Bologna)

for the permission of visiting museums and use of photographs of wax models.

付 記

興味ある読者のために、参考として今回訪れた施設の連絡先とそれらに関する書物について記載しておく。

連 絡 先

CAGLIARI

Museo Anatomico
Via Cittadella dei Musei—Piazza Arsenale
Tel 070664783
Fax 0706754003
E. mail: riva@vaxca1.unica.it
Responsabile del Museo: Prof. Alessandro Riva

NAPOLI

Museo Anatomico
Via L. Armani, 5
Tel 0815666010
Fax 0815666010
Responsabile del Museo:
Direttore Istituto di Anatomia Umana

FIRENZE

Museo Zoologico "La Specola" dell'Università a Firenze Via Romana 17 Firenze
Hours: 9:00~12:00 (Sundays to 13:00), closed Wednesdays and holidays
Admission: 6000lire for adults and 3000lire for children

BOLOGNA

Museo delle Cere dell'Istituto di Anatomia Umana
Via Irnerio, 48
Tel 051242217-051244467
Fax 051351659-051351637
E. mail: aruggeri@biocfarm.unibo.it
Responsabile del Museo: Prof. Alessandro Ruggeri

文 献

- 1) Luigi Cattaneo, Alessandro Riva (1993) *Le Cere Anatomiche di Clemente Susini dell'Università di Cagliari, Bilingual Edition with English Text.* Stef-Cagliari, pp 1-70
- 2) Alessandro Riva (1999) *Le Cere Anatomiche di Clemente Susini dell'Università di Cagliari, Nel Bicentenario della nomina di Francesco Antonio Boi prim-Cattedratico di Anatomia dell'Università di Cagliari,* pp 1-48
- 3) Alessandro Riva, Akihisa Segawa, Ignazio Lai, Francesca Testa Riva (1997) *The Clemente Susini Collection of wax models of the University of Cagliari. Italian Journal of Anatomy and Embryology* 102: 91-97
- 4) 瀬川彰久 (1999) イタリアのワックスモデル。「大顔展」図録. 村澤博人, 馬場悠男, 橋本周司, 原島 博, 大坊郁夫 (編) 読売新聞社 pp 50
- 5) Benedetto Lanza, Maria Luisa, Azzaroli Puccetti, Marta Poggesi, Antoni Martelli (1997) *Le Cere Anatomiche della Specola, Arnaud Editore, Firenze,* pp 1-255
- 6) Mario Bucci (1969) *Anatomia Come Arte. Edizioni D'Arte Il Fiorino, Firenze,* pp 189-205
- 7) 佐藤 明 (1954) フィレンツェ "ラ・スペコラ" 博物館の解剖学蠟人形, *パロック・アナトミア, 株式会社リプロポート, 東京*
- 8) 宇田川 悟 (1997) ヨーロッパのおもしろい博物館, 株式会社リプロポート, 東京, pp 70-75
- 9) 亀津奈穂子 (1994) ラ・スペコラ解剖学博物館. *メディカル朝日* 12月号, pp 58-61
- 10) Franco Ruggeri (1988) *Il Museo dell'Istituto di Anatomia Umana Normale, I Laboratori Storici e i Musei dell'Università di Bologna I Luoghi Del Conoscere. Cinisello Balsamo, Milano,* pp 98-105

追記: なお, 本稿で紹介されている Alessandro Riva 著の「Le Cere Anatomiche di Clemente Susini dell'Università di Cagliari」の日本語訳ができましたのでご希望の方は無料にて配布いたしますので以下までご連絡ください。

瀬川彰久

〒228-8555 神奈川県相模原市北里1-15-1
北里大学医学部解剖学教室